

岩手県立療育センター及び岩手県立盛岡となん支援学校の移転による 開所・開校について

1 開所までのスケジュール

- (1) 工事着工 平成27年10月21日(水)
- (2) 定礎式 平成29年10月12日(木)
- (3) 竣工日(建設工事完了日) 平成29年10月19日(木)
- (4) 落成式及び内覧会 平成29年11月29日(水) 14時から ※詳細は3ページ参照。
〔出席予定者〕知事、副知事、教育長、県議会議長、紫波選挙区選出県議会議員、矢巾町長(全市町村長に案内)、矢巾町議会議長、県医師会長、岩手医科大学理事長・学長、県事業団理事長、障がい者団体、保護者会、工事施工者、ほか支援学校を含む関係者
〔総出席者250名程度〕
- (5) 開所・開校予定日
療育センター 平成30年1月5日(金)(外来診療・通所事業は1月9日(火)から開始)
盛岡となん支援学校 平成30年1月4日(木)(授業は1月17日(水)から開始)

2 新施設の整備概要

- (1) 所在地 紫波郡矢巾町大字藤沢第2地割(岩手医科大学附属病院の移転敷地内)
- (2) 延床面積 21,919.93㎡
【内訳】岩手県立療育センター 12,643.31㎡
(障がい児支援棟 10,076.36㎡、障がい者支援棟 2,566.95㎡)
岩手県立盛岡となん支援学校 9,276.62㎡
(校舎棟 6,929.66㎡、寄宿舍等 2,346.96㎡)
- (3) 総工事費 約96億円
【内訳】岩手県立療育センター 約61億円
岩手県立盛岡となん支援学校 約35億円
- (4) 施設レイアウト



3 新療育センターの機能

区 分		現療育センター	新療育センター	
障 が い 児 支 援 部 門	入 所 部 門	肢体不自由児対応病床	60人	30人
		重症心身障がい児対応病床（超重症児等対応）	-	20人
		一般対応病床（在宅重症児の重篤化対応等）	-	10人
	外 来 部 門	診療科数	6診療科	9診療科
		診療科名	小児科、整形外科、児童精神科、歯科、神経内科、泌尿器科	小児科、整形外科、児童精神科、歯科、神経内科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科
	通 所 部 門	医療型児童発達支援センター（旧：肢体不自由児通園）	20人	20人
		児童発達支援事業・生活介護事業（旧：重症心身障がい児・者通園）	15人	15人
		短期入所・日中一時支援	5人・3人	5人・3人
	障 が い 者 支 援 部 門	施設入所支援	30人	30人
自立訓練（機能訓練）		20人	20人	
自立訓練（生活訓練）		6人	6人	
就労移行支援		6人	6人	
相 談 支 援 部 門	障がい児等療育支援事業	在宅の重症心身障がい児・者への支援	継続	
	発達障がい者支援センター	在宅の発達障がい児・者及び支援機関への支援	継続	

※ 下線部分は、療育センターの機能・体制を充実させるため、定員枠を再編及び診療科を増設するものである。

（1）超重症児（者）等に対応したハード・ソフト両面での体制整備

- ① 障がい児の負担が少ない静音性に最も優れており、かつ、高画質による診断が可能な1.5テスラのMRI（超伝導磁気共鳴断層撮影装置）や消化器の動き等を確認できるX線透視装置などの医療機器整備により、障がい児に対応した医療機能を強化する。
- ② 新設した重症心身障がい児対応病床（20床）や通所サービスの居室等において、人工呼吸器に対応した酸素ガス供給設備等を整備するなど、入所児はもとより、日中一時支援や短期入所、生活介護などの通所支援における、超重症児（者）等への対応を強化する。
- ③ 加えて一般病床（10床）を新設し、在宅の重症心身障がい児の肺炎等の重篤化への対応やNICU（新生児特定集中治療室）からの後方病床としての機能を新たに追加する。

（2）診療科の増設による診療体制の充実

発達障がいなどの障がいの特性により一般の医療機関で受診が困難な障がい児への対応や複数の医療機関の掛持ち受診の負担軽減を図るため、現在6診療科（※）ある診療体制に加えて、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、眼科を増設し、外来診療機能を強化する。

※ 現診療科：小児科、整形外科、児童精神科、歯科、神経内科、泌尿器科

（3）特別支援学校との連携

県立盛岡となん支援学校との職員の合同研修や情報共有等ができる環境の整備を図り、医療、福祉、教育が一体となって連携することにより、保護者や障がいのある子どもが安心して学べる教育環境の充実を図る。

4 盛岡となん支援学校の機能

(1) 学校概要

ア 肢体不自由の児童生徒を対象とした特別支援学校

イ 児童生徒数 114名

【内訳】本校：88名（小学部43名、中学部19名、高等部26名）

分教室：26名（小学部10名、中学部10名、高等部6名）

ウ 寄宿舎 16名（小学部2名、中学部6名、高等部8名）

エ 教職員数 150名

(2) 県立療育センターとの連携

- 盛岡となん支援学校本校は県立療育センターに隣接して設置され、本校に在籍する児童生徒の中にも、県立療育センターにおいて治療や訓練を受ける児童生徒が多く在籍しているほか、県立療育センター内には、盛岡となん支援学校分教室が設置されており、入院等により医療を必要とする児童生徒へ一人ひとりのニーズに応じた学校教育を提供している。

(3) 移転の効果

- これまでの県立療育センターと盛岡となん支援学校との物理的距離を解消し、児童生徒の利便性の向上と県立療育センターの持つ医療・訓練機能との連携の強化を図る。
- 移転により岩手医科大学附属病院と県立療育センターの緊密な医療連携により高度小児医療提供体制が構築されることから、盛岡となん支援学校においても、これまで以上に県立療育センターの医療・訓練・福祉に関わる専門家と連携した指導の充実や肢体不自由教育・重度重複障がいのある児童生徒の教育の専門性の向上が図られる。

5 岩手県立療育センター及び岩手県立盛岡となん支援学校新築移転落成式の開催内容

【開催日時】 平成29年11月29日（水）14時から

- 式典（14:00～15:00） 於：岩手県立療育センター体育館
 - ① 開 会
 - ② 式 辞 岩手県知事
 - ③ 工事報告 岩手県保健福祉部長、岩手県教育委員会教育長
 - ④ 感謝状贈呈 岩手県知事（贈呈先：岩手医科大学理事長、職員駐車場土地賃貸協力者、工事関係者）
 - ⑤ 祝 辞 岩手県議会議長、岩手医科大学理事長、岩手県医師会長、矢巾町長
 - ⑥ 来賓紹介
 - ⑦ 祝電披露
 - ⑧ 謝 辞 岩手県立療育センター所長、岩手県立盛岡となん支援学校校長
 - ⑨ くす玉開披 知事、副知事、来賓、盛岡となん支援学校児童生徒
 - ⑩ アトラクション
 - ・ 盛岡となん支援学校の児童生徒（呼びかけ）
 - ・ 矢巾東小学校の児童（合唱）
 - ・ 徳田保育園の園児（地元郷土芸能「徳丹獅子踊り」）
- 内覧会（15:00～16:00）

式典出席者を対象に、療育センター及び学校の内覧会を開催（自由観覧）。
また、体育館スクリーン等でアール・ブリュット作品を紹介（スライド等の映写）。

担当：保健福祉部障がい保健福祉課
こころの支援・療育担当課長 佐々木（内線5450）、主任 石川（内線5446）
教育委員会事務局学校調整課
首席指導主事兼特別支援教育課長 佐々木（内線6142）